一ノ宮地区白山市ミライ会議

1. 会議概要

項目	内容
開催日時	令和8年8月2日（日）10:00〜
開催場所	一ノ宮コミュニティセンター
参加者	8名（市長、一ノ宮コミュニティ、町会推薦、子ども会育成会）
選択トピック	若い世代が見つける「地元の魅力」と伸ばし方 1. 地域の活力維持と観光資源の活用 2. 交通環境の整備 3. 空き家問題 4. ミドル世代の参画



2. 主な議題と意見

（1）地域の活力維持と観光資源の活用





① 現状

- 一ノ宮地区には獅子吼高原、七ヶ用水の取出口、白山比咩神社など優れた観光資源が多くある
- 白山比咩神社は全国 3000 社の白山神社のシンボルであり、自転車で巡るサイクリングロードも有効な地域である
- 鶴来第一幼稚園には、自然環境を活かした特色ある教育に共感し、この地域だけでなく能美市、野々市市、金沢市から通われているお子さんがかなりいる
- 獅子吼高原、昆虫館など人を呼ぶ施設がたくさんあるが、地元でもイベント情報が十分に認識されていない

② 課題

- 観光資源が豊富にあるにもかかわらず、若い世代の定着率が低いのが現状である
- 観光資源のイベント情報の発信が不十分で、地元住民でさえ実施状況を把握していない
- 旧一ノ宮保育所が遊休施設のままになっており、その活用方法が課題である

③ 市の主な方向性・回答・対応

- 観光資源の振興を図り、交流人口を増やす必要がある
- 関係人口の増加を考えていく必要があり、白峰地域での空き家リノベーションと宿泊客受け入れなどの取り組み事例を参考にしている
- 旧一ノ宮保育所の利活用や獅子吼高原の活性化については市としても考えており、地域の皆様と相談しながら進めていく

（2）交通環境の整備





① 現状

- 現在のコミュニティバスは地域内で完結してしまい、利用者が限定されている
- 朝一便は山手から出発して鶴来駅へ向かい、帰りは昼過ぎに山の方に向かう運行となっている
- 通学バスについては、距離基準で運行が決定されており、冬期間のみ運行されている地域がある

② 課題

- コミュニティバスの利便性が不足しており、最寄りのバス停から乗り継ぎなしで病院や商業施設、公共施設、習い事の場所まで乗れないのが課題である
- 子どもの習い事への送迎が大変であり、子育て世代の親の負担が増えている
- 他市町では、AI を活用した予約制のコミュニティバスを導入した例がある
- 近年のクマの目撃情報が増えており、子どもたちが年間を通して徒歩で通学することに不安がある

③ 市の主な方向性・回答・対応

- コミュニティバスについては、これまでのミライ会議において多く話題になり、市も課題は認識している。現在、議会でも話し合われており、市全体でしっかり検討していく
- クマの出没に関しては教育委員会と相談し、通学距離基準だけでなく安全面を考慮した運用を検討する

（3）空き家問題





① 現状

- 白山市の空き家率は 8.1%で、全国平均 13.8%、石川県 15.6%と比べて低い
- しかし、地区によっては空き家問題が深刻な地域がある。参加者の周辺では向かいの家が空き家、隣が空き家、斜め向かいが空き家という状況である

② 課題

- 平均値では 8.1%だが、特定の地域では空き家率がより高く、危険な状態の建物もあり、空き家問題が深刻化
- 防犯上の懸念として、周辺に空き家が増えると心配が生じる

③ 市の主な方向性・回答・対応

- 空き家バンク制度、空き家の改修補助制度、空き家利活用奨励金制度など複数の対策を講じている
- 危険な建物については早期に対応する必要があり、鶴来支所に相談することを勧める

（4）ミドル世代の参画



① 現状

- 一ノ宮地区は市全体の平均を大きく上回るペースで高齢化が進んでいる
- 地区内には 40 歳から 59 歳のミドル世代が 206 人存在し、生産年齢人口の約 3 割を占めている

② 課題

- ミドル世代は仕事、育児、介護のトリプルパンチに直面しており、平日昼間の集まりや対面必須の活動には物理的に参加できない
- ミドル世代は職場では責任ある立場の人間が、地区ではどうしても若造扱いされてしまい、改善提案がなかなか通りにくい
- ミドル世代は職場で培ったマネジメント能力や IT スキルなどの即戦力を持っており、地区変革の担い手として再定義する必要がある
- 紙資料の回覧や対面での手作業などに負担を感じている

③ 市の主な方向性・回答・対応

- 中堅世代の方々が、これまで培ってきたいろいろな経験・知識・技能などを発揮していただいている事例も非常に増えてきている。地域コミュニティ組織を作って、変化してきていると感じる
- 電子回覧板などのハイブリッド対応を検討しており、高齢者が多い地区では紙ベースとの併用を考えている
- 地区参画の障壁を取り除き、隙間時間を活用できるような会のあり方を検討していくことは良い発想であり、市も工夫していく

---

3. まとめ

一ノ宮地区は、優れた観光資源を持っており、まちづくりにどう活かしていくかを、幅広い世代が、この先のビジョンについて積極的に考え、さらなるコミュニティ強化に取り組んでいる地区です。

今回のミライ会議では、優れた観光資源（白山比咩神社、七ヶ用水取水口、獅子吼高原など）の情報発信強化、交通環境の改善（予約制バスの導入検討）、空き家問題への対応、そしてミドル世代の地域参画促進など、多角的な視点から地区の未来について、具体的な課題が話し合われました。

市としましては、観光資源の振興と交流人口・関係人口の増加について、引き続き様々な取り組みに努め、また、インフラ整備の必要性についても認識しており、地区の皆さまと相談を続けていくことを確認しました。

